

## 2. 子どもたちが安心して過ごせる場所を～カンボジアの将来のために～

1992年3月、難民となっていた人々のカンボジア本国への帰還が始まり、CYRもカオダイン難民キャンプからカンボジア国内へ活動拠点を移し、農村部での幼児教育拡充に取り組むことになりました。保育所を開設し、保育活動と朝・昼の給食、おやつを提供を始めました。開設当初は、保護者が子どもを預けたがらないこともありましたが、農村部では珍しい1日保育の活動を始めて24年、人々の暮らしの変化に伴い、CYRの保育活動も形態を変えながら、今に続いています。

15年ほど前から、カンボジアの首都プノンペン郊外に外資系企業の工場が進出し、今では多くの村人が現金収入を求めて働いています。保護者たちが朝早くから夜遅くまで家を空けている間、子どもは近所の人に預けられますが、目の不自由なおばあさんに預けられた兄弟が遊んでいるうちに沼に落ちてなくなるという事故もありました。社会の大きな変化の中で、幼児教育を受けるためだけでなく、安全な居場所としての幼稚園の重要性が高まっています。CYRは、子どもたちの明日を考え、発育に必要な環境を用意することが、カンボジアの将来への大きな貢献になると信じ、2011年から「村の幼稚園」の開設事業を行っています。少額の資金で開設し、開設から3年間は、CYRが村の幼稚園を支援し、4年目からは地区や村人に運営権を移行するというしくみで、村人が継続して運営できる幼稚園を一緒に作りあげます。

プノンペンから車で1時間半ほどのところにあるカンダール集タプロム村の幼稚園では、23人の子どもたちがあいさつや礼儀作法、文字や数字を学び、元気に遊んでいます。開園当初は喧嘩をしたり、見知らぬ人を見て泣き出したりしていた子どもたちが、幼稚園に通ううちに変わり、友達と協力し合うようになります。大人が驚くほどの子どもたちの成長は、幼少期に教育を受ける機会に恵まれなかった大人たちにも教育の大切さを感じさせてくれます。

(特定非営利活動法人幼い難民を考える会)

